

今帰仁村の百按司（むむじゃな）墓から持ち出された遺骨について、日本人類学会はこのほど、遺骨を保存継承するよう求める要望書を京都大に提出した。これに対し琉球人遺骨返還訴訟を支える会は3日、県庁で記者会見し、日本人類学会に抗議文を送ったと明らかにした。

京大は遺骨の返還に応じておらず、琉球民族遺骨返還研究会の松島泰勝代表（龍谷大学教授）らが京都地裁に返還と損害賠償を求める訴訟を起こしている。

支える会の与那嶺義雄共同代表は会見で「裁判が行われている中で京大を支援する内容になっており、とんでもない話」と批判した。

抗議文は「琉球の民の文化をないがしろにし、大和民族とは異なる遺骨を日本人として研究対象に含めるのは日本人類学会として間違った選択をすることになる」と指摘した。

遺骨返還研究会によると、要望書は遺骨について「将来にわたり保存継承され、研究に供与されるべきだ」などとしている。

支える会は台湾大学から移管された遺骨を保存する県立埋蔵文化財センターを所管する県教育委員会にも遺骨の返還を求めた。県教委の担当者は本紙の取材に「百按司墓は誰の墓なのか特定が難しい。今後も学術資料として保存したい」と答えた。

琉球新報社